

「家畜衛生フォーラム 2019」の開催について

主催：日本家畜衛生学会
共催：(一財) 生物科学安全研究所
後援：農林水産省（前年度実績）

テーマ：「牛乳房炎の診断、治療及び予防の最前線」

日時及び場所

日時：2019年12月20日(金)13:00～17:15

場所：Meiji Seika ファルマ(株)本社講堂

東京都中央区京橋 2-4-16

(東京メトロ銀座線「京橋駅」下車徒歩1分、
JR「東京駅」下車徒歩10分)



フォーラムのねらい

牛の乳房炎は、乳牛の疾病の中で最も大きな損害を与えている疾病で、その経済損失は年間800億円にも上るといわれており、生乳生産上の最も大きな損耗要因として、また公衆衛生上、安全な原料乳の生産を行う上でも酪農業界にとって喫緊の課題となっている。

一方、近年では酪農環境の変遷により、乳房炎の治療法についても多様化してきている。特に抗菌薬の薬剤耐性については乳房炎の治療においても例外ではなく、適正治療、慎重使用に基づく使用が強く求められている。昨年9月に農林水産省のHPに公表された「牛乳房炎抗菌剤治療ガイドブック」は現時点での最新の診断・治療の考え方を示している。今回は、その概要についての講演をいただき、難治性乳房炎や新たな抗菌剤以外の治療法、また今注目の乳房炎ワクチンの効果についても講演いただく。

座長

河合一洋 先生（麻布大学）、林 智人 先生（農研機構動衛研）

演題および講師

13:00-13:06

学会理事長および共催機関理事長挨拶（各3分）

13:06-13:09

今回の企画について（3分）

13:10-14:10

① 乳房炎の診断と治療の考え方（60分）

河合 一洋 先生（麻布大）

14:10-14:40

② Coliform 乳房炎の病態と治療戦略 (30分)

篠塚 康典 先生 (麻布大)

14:40-15:25

③ マイコプラズマ・ボビスの病原因子とその対策 (45分)

樋口 豪紀 先生 (酪農大)

15:25-15:45

休憩 (20分)

15:45-16:15

④ サイトカイン療法 (30分)

菊 佳男 先生 (農研機構動衛研)

16:15-16:45

⑤ 乳房炎ワクチンとその効果 (30分)

検崎 真司 先生 (鹿児島 NOSAI)

16:45-16:50

会場設営 (5分)

16:50-17:10

総合討論 (20分)

① 第91回大会の開催について

「家畜衛生フォーラム2019」を開催する12月20日(金)の午前中に、フォーラムと同じ会場で第91回大会の開催を予定しています。詳細については改めてお知らせします。